

小島由継教授最終講義のご案内

謹啓 麗らかな初日の光を仰ぎ、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、広島大学自然科学研究支援開発センター教授 小島由継先生におかれましては、令和三年三月三十一日をもって定年退職されることとなりました。

小島先生は、昭和五十三年三月名古屋工業大学工学部をご卒業後、東京工業大学大学院理工学研究科に進学され、同五十九年三月同大学院理工学研究科博士課程を修了しました。その後、株式会社豊田中央研究所に入社され、平成十八年五月に同所を退社された後に、同六月広島大学先進機能物質研究センター教授、平成二十九年四月に同大学自然科学研究支援開発センター教授、平成三十年十一月には広島大学 DP (Distinguished Professor) となられ、今日に至っております。先生は三十年にわたって、ナノコンポジット・水素貯蔵材料・アンモニアのエネルギー利用に関する研究開発および教育に従事され、広島大学着任後の十四年余りの期間に幅広い学識と深い専門知識に裏付けられた卓抜な指導力を発揮して十四名博士人材を輩出し、産業界・学界あるいは官界に多くの優れた人材を送り出されました。

特に優れた研究業績としては、水素貯蔵材料の中でも「大量エネルギー貯蔵・輸送」のための水素・エネルギーキャリアとして、アンモニアが優れることを明らかにしたことであり、その成果を基に申請した窒素循環エネルギーキャリア研究拠点が平成二十八年度の広島大学自立型研究拠点として採択され拠点長を務めてこられました。また、アンモニア貯蔵材料やニッケル水素化物電池の研究においても優れた業績を上げられています。

学内においては、先進機能物質研究センターにおける副センター長、センター長を歴任し、同センターの管理・運営を積極的に行ってこられました。また、平成二十九年四月から令和元年十月まで自然科学研究支援開発センター先進機能物質部門長、同元年十一月から同三年三月まで自然科学研究支援開発センター研究開発部先進機能物質部長を歴任し、同センターの管理運営に貢献してこられました。

一方、学外においては、日本金属学会理事、日本金属学会中国四国支部長、平成二十四年に京都で開催された水素貯蔵材料の国際会議(MH2012)では共同議長などを務められ、学会の運営と発展に貢献されました。社会活動におかれましても、平成十九年に設立された水素エネルギー利用開発研究会の代表幹事、公益財団法人八州環境技術振興財団評議員、水素エネルギー協会理事などを歴任し、社会の発展に重要な役割を果たされました。その他、様々な水素貯蔵材料の研究開発を通じて、平成二十九年に日本金属学会より學術貢献賞を、令和二年に日本金属学会より技術開発賞を授与されました。この度の先生のご退職に当たり、先生のご業績を讃え、日頃のご指導に感謝申し上げますとともに、今後のより一層のご活躍を祈念して、先の記念事業を企画いたしました。

皆様には、本趣旨にご賛同いただき、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和三年一月吉日

小島由継教授退職記念事業実行委員会 発起人代表

広島大学大学院先進理工系科学研究科

市川 貴之 記